

新たな学びの創造Ⅲ

～想いを形にできる表現力の育成を目指して～

郡山市立郡山第二中学校 (代表) 校長 市川 正道

教諭 佐藤 哲也

教諭 三浦 佳大

1 研究の趣旨

教育の今日的課題である「生きる力」を育むために、確かな「学び」を身につけさせるための学習指導のあり方を探る必要があると考えた。そのなかで、学習指導要領の改訂と学校教育法の改正により、学力の重要な要素は、基礎的・基本的な知識・技能の習得のみならず、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等のいわゆる活用力および学習意欲であることが明らかになった。本校の学校目標である「創造的な学力にすぐれ、自主的に行動する生徒」の育成の具現化と、これまでの研究の課題の一つである、授業の中で、内発的動機付けから始まり、実感・納得を伴う学びを経て、活用力の向上につながる「学びの連鎖」を各段階で意識した授業実践が重要であることが改めて感じられた。また、課題解決に向けた様々なアプローチを学びの連鎖の観点で見直していくことが課題となった。

上記の理由から、学んだことをきっかけとして、さらに興味の枠を広げ、より学びたいという意欲をもって、習得した知識・技能や経験した学びのつながりを活用し、新たな学びを自ら創造していくことのできる人間力の育成や、自分のもつ英知を結集して課題解決に活用できる魅力ある学び、様々な表現活動を踏まえての言語力の育成が図られる学びのあり方を追究する必要があると考えた。

そのため、各教科指導において生徒の学びや生徒の想いを形に表現する力の育成を目指し、標記研究主題を設定し、平成23年度から3ヶ年計画で本主題にせまることとした。

2 研究の概要

- (1) 生徒の思考の流れを考慮し、学ぶ必要性を感得できる事象や場面提示を工夫し、自覚と目的意識のある学びを創造し、主体性を育てる。(内発的動機付け)
- (2) 学習材の改善や開発、課題設定の工夫を通して、実感・納得を伴う学びを創り出し、学ぶことの本質や価値に迫ることから、価値ある知識・技能を確実に獲得できる資質や能力を養う。(実感・納得する学び)
- (3) 新たに獲得した価値ある知識・技能や学び方のつながりを、既知の価値と関連付けたり、未知のものの解明に活用したりするなど、獲得した価値ある知識・技能や学び方の有用性を感得させ、それらを活用した連続性や系統性、発展性のある創造的な学びを培う。(創造的な学び)

3 成果と今後の課題

生徒の学びたいという「思い」を大切にするとともに、その「思い」を形に表す「表現力」に主眼を置いて研究を進めた。様々な表現活動の中で、自分の考えを自由に表し、他者の意見に耳を傾けながら学びを深めようという主体的な姿が見られた。しかし、考えを練り上げ、さらによいものにしようという集団としての向上にはまだ時間が必要である。また、言語環境の充実や表現活動を行う時間の確保、表現の学びをどのように評価するかなどを今後の課題としていきたい。